

利根大堰下流域における 治水と環境の一体的な対策(イメージ)

※湿地再生や治水工事等で実施する掘削の形状・構造等の具体的な計画は、「利根大堰周辺の治水と環境検討会」で確認しながら進めていきます。

● 水路掘削による車両侵入抑止対策

- 左岸管理用道路の南側に、新規水路を掘削し、オフロード車やバイクの侵入を抑止する。
- 利根大堰からの水を利用し、常時水が流れる構造にして湿地再生に活用する。

利根大堰左岸側ゲートの
操作・運用の調整

掘削水路

管理用道路

流れの障害となるマウンドの除去

昭和橋

利根大堰

● 右岸の河岸防護のための治水対策

- 利根川の水の流れが右岸側に片寄っているため、流れを多少左岸側に寄せる。
- 左岸河岸部の流れの障害となる帯状マウンドを除去する。

● コウノトリの生息に適した湿地の整備 【下流域ゾーン】

- 関東地域の広域エコ・ネットの指標であり、水辺のシンボルでもあるコウノトリの採餌条件を有した浅水域の湿地を整備する。
- 地盤の切り下げや掘削水路からの流水等を活用し、コウノトリの餌となる多様な水生動物が生息可能となり、四季に応じた水深の変化に対応する湿地の創出を図る。

● 砂礫河原の再生【上流域ゾーン】

- 地盤を切下げるとともに、利根大堰のゲート運用や掘削水路からのフラッシュ効果に基づく砂礫河原の再生を検討する。
- かつて生息が見られたコアジサシ・シロチドリ・カワラバッタ等の砂礫性動植物の分布再生を目標とする。

● たまり池の再生【中流域ゾーン】

- 希少動植物をはじめとした生物多様性の主要拠点であった「たまり池」の再生や、掘削による河岸ワンドの創出を図る。
- 地下水位が高い箇所の掘削等により、ニホンアカガエル等の湧水性や止水性の動植物相の再生を目標とする。

地元環境NPOが「利根大堰周辺の治水と環境検討会」 開催に際して求めている環境上の要件

1. 生物多様性の重要拠点であった「たまり池」の再生

利根大堰下流左岸地区において、最も生物多様性が高く河川環境保全上の重要性が高かった「たまり池」が壊滅的なダメージを受けている現状を踏まえ、旧来の湧水性止水池の環境条件と動植物相をとり戻すことを目標とした『湿地再生』を具体化すること。

2. 水路掘削による車両の侵入抑止と環境管理の水源確保

「たまり池」をはじめ利根大堰下流左岸地区の広域的な自然破壊の最も大きな要因となっているモトクロスやオフロード車の侵入を効果的に抑止するために、常時流水が確保された新規水路を掘削すること。また、この水路の水を効果的に用いて、砂礫河原や湿地整備の維持管理を図ること。

3. 水辺環境のシンボルとなるコウノトリの生息可能な湿地の整備

関東地域の利根川・江戸川・荒川を中心に、コウノトリ・トキを指標としたエコロジカル・ネットワークの形成が推進されていることから、利根大堰下流左岸地区においても、コウノトリの飛来可能な生息条件を備えた『湿地再生』に取り組むこと。

利根大堰の存在や近年の河川流況等に基づいて 求められる治水上の要件

1. 左岸高水敷の掘削推進による右岸の河岸防護

利根大堰下流の流向の右岸側への片寄りにより、右岸の河岸防護ラインに影響を及ぼしていることから、左岸高水敷の掘削による『湿地再生』を兼ねた切り下げを計画的に実施し、流向を中心に寄せる必要がある。

2. 左岸水際部の帯状マウンドの除去

右岸河岸防護ラインへの負担軽減のため、左岸水際に現存する帯状マウンドの掘削除去を進める必要がある。